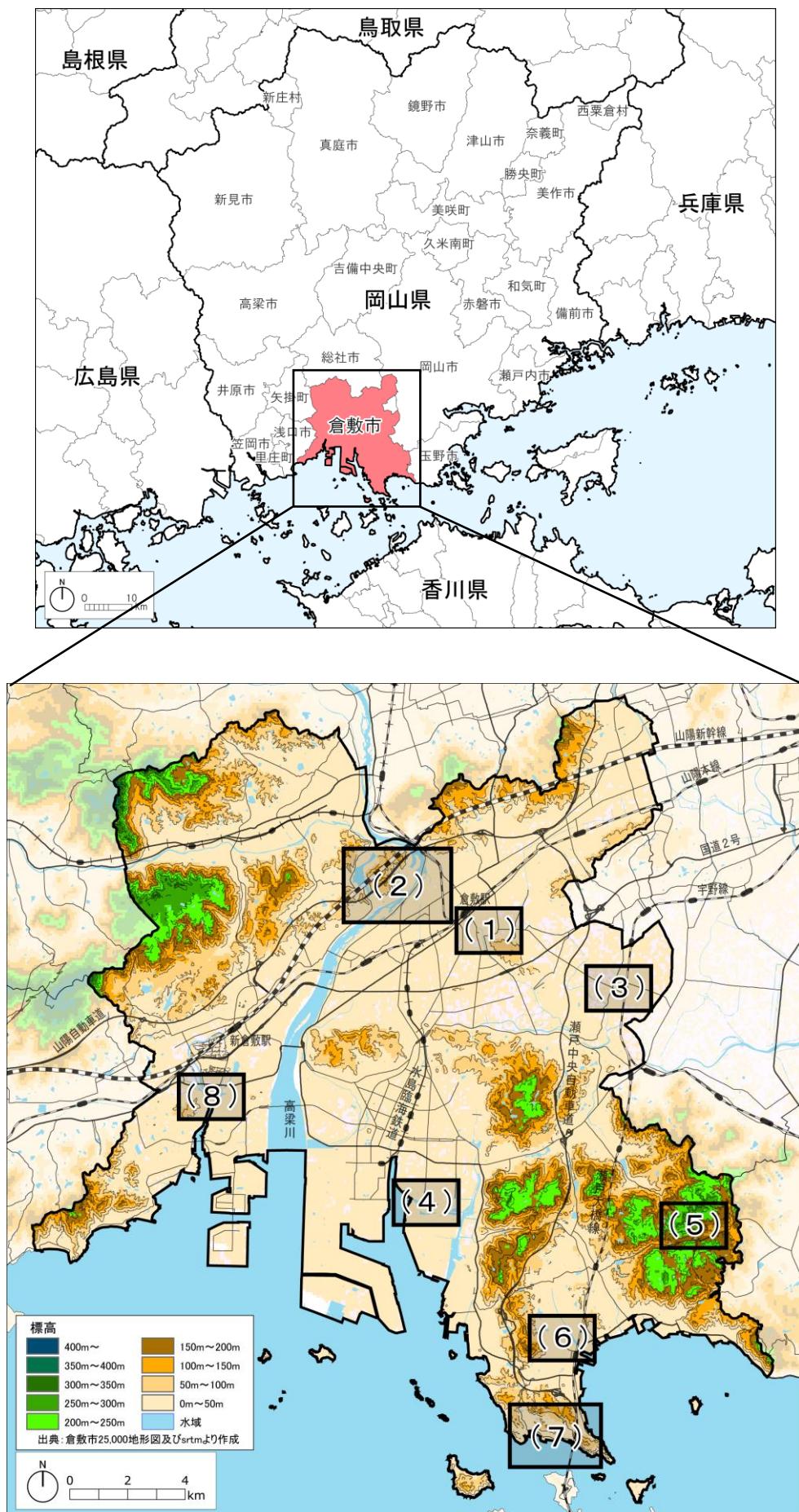


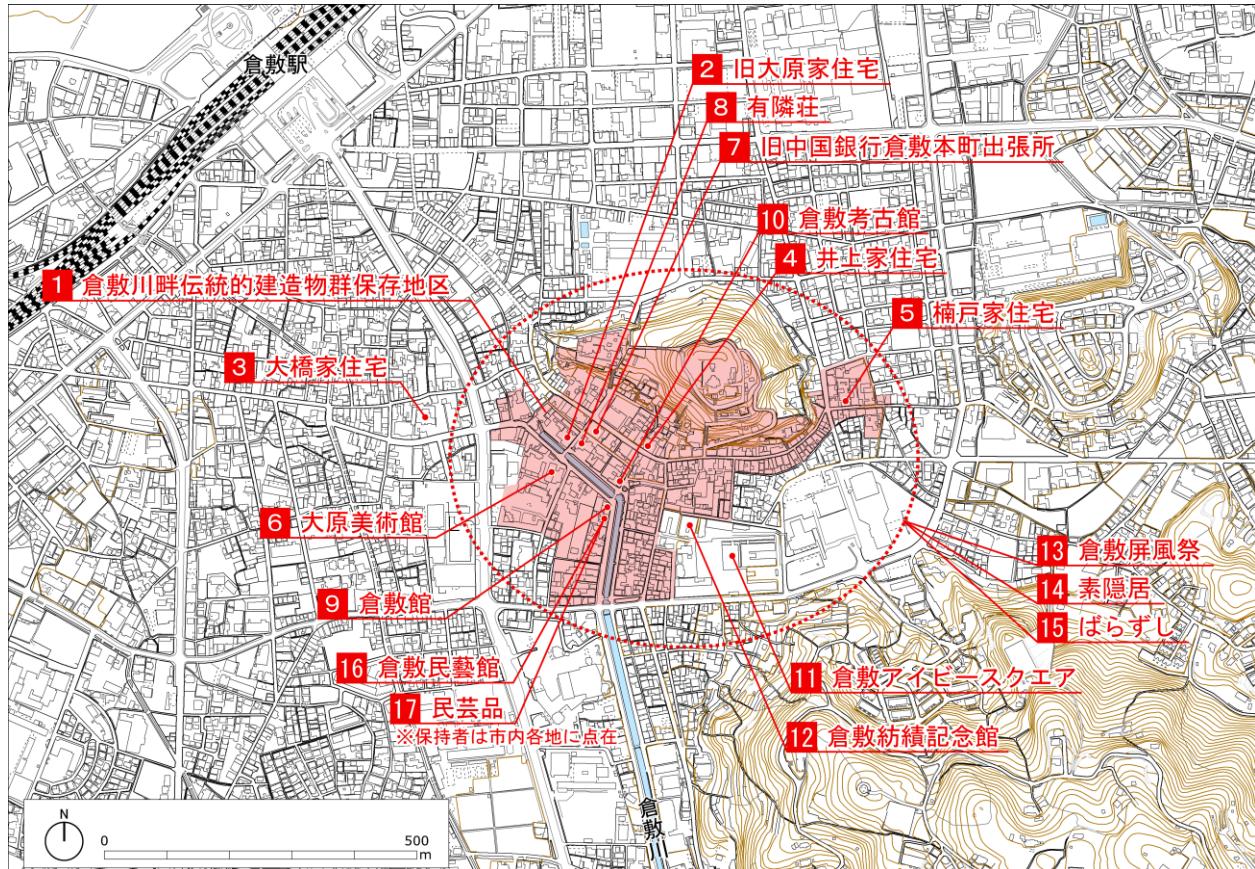
① 申請者	倉敷市	② タイプ	地域型 / シリアル型 Ⓐ B C D E
③ タイトル			
<p>一輪の綿花から始まる倉敷物語 ～和と洋が織りなす繊維のまち～</p>			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>400 年前まで倉敷周辺は一面の海だった。近世からの干拓は人々の暮らしの場を広げ、そこで栽培された綿やイ草は足袋や花蓮などの織物生産を支えた。明治以降、西欧の技術を取り入れて開花した繊維産業は「和」の伝統と「洋」の技術を融合させながら発展を続け、現在、倉敷は年間出荷額日本一の「繊維のまち」となっている。</p> <p>倉敷では広大な干拓地の富を背景に生まれた江戸期の白壁商家群の中に、近代以降、紡績により町を牽引した人々が建てた洋風建築が発展のシンボルとして風景にアクセントを加え、訪れる人々を魅了している。</p>			
和・洋が融和した町 (旧大原家住宅と大原美術館)	旧倉敷紡績所倉敷本社工場 (現倉敷アイビースクエア)	今に続く伝統的な繊維製品	

## 市町村の位置図（地図等）

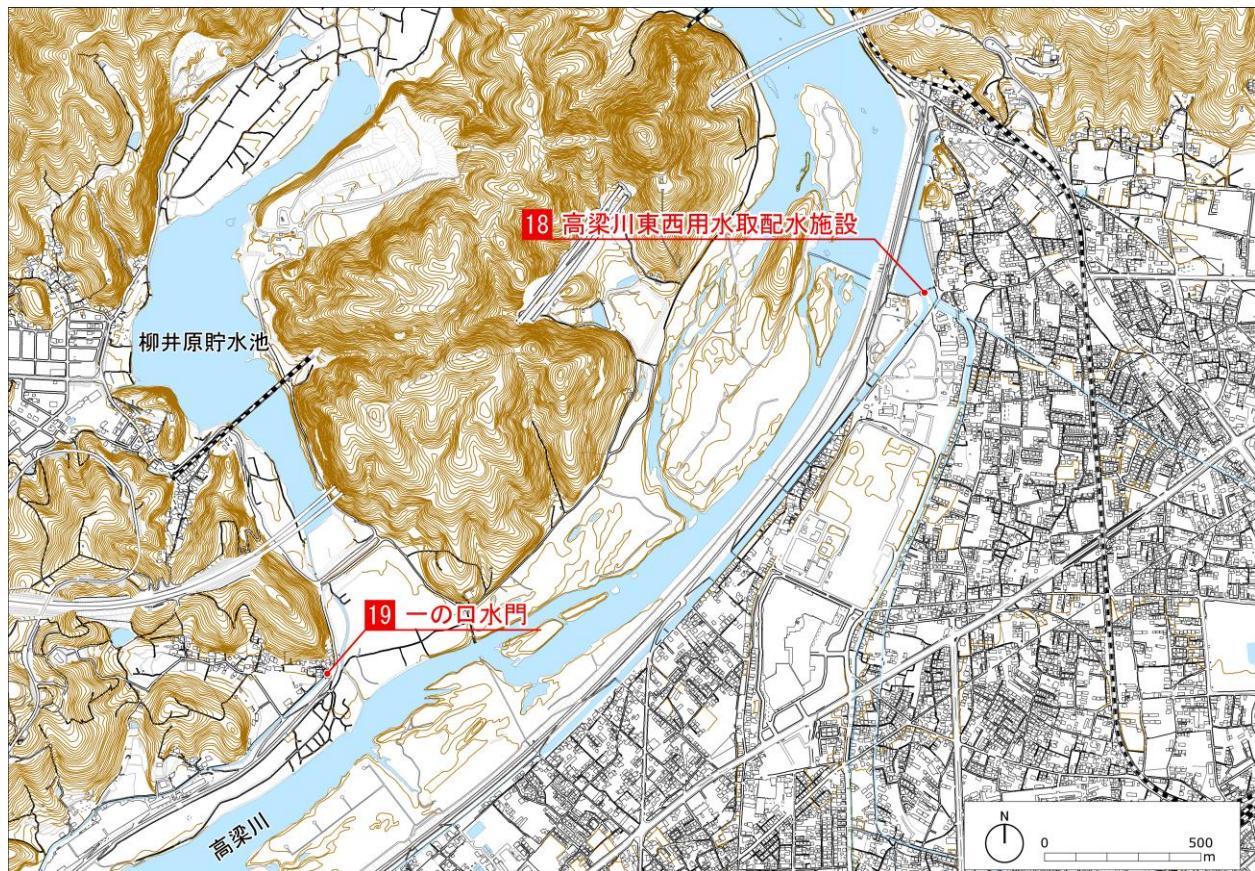


## 構成文化財の位置図（地図等）

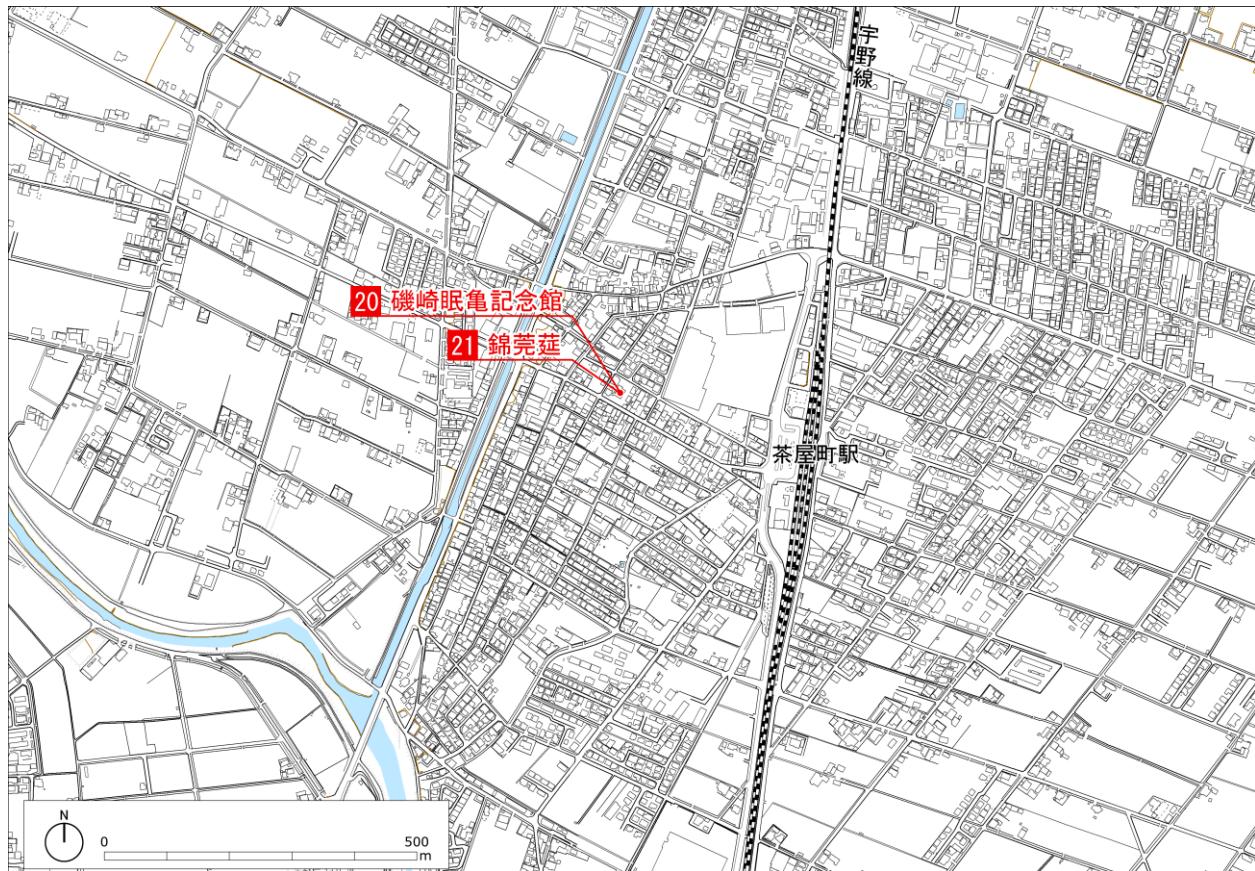
## (1) 倉敷地域（その1）



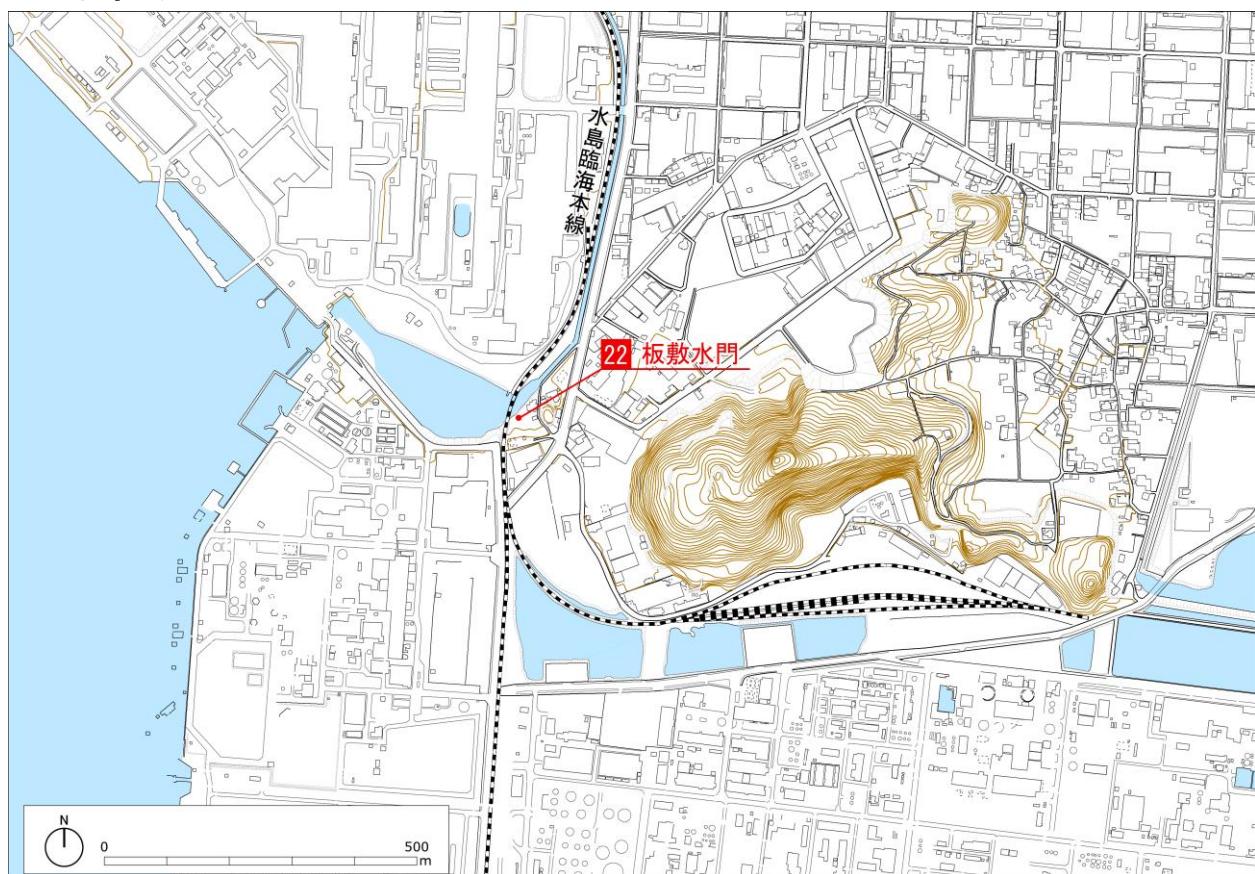
## (2) 倉敷地域（その2）・船穂地域



(3) 茶屋町地域



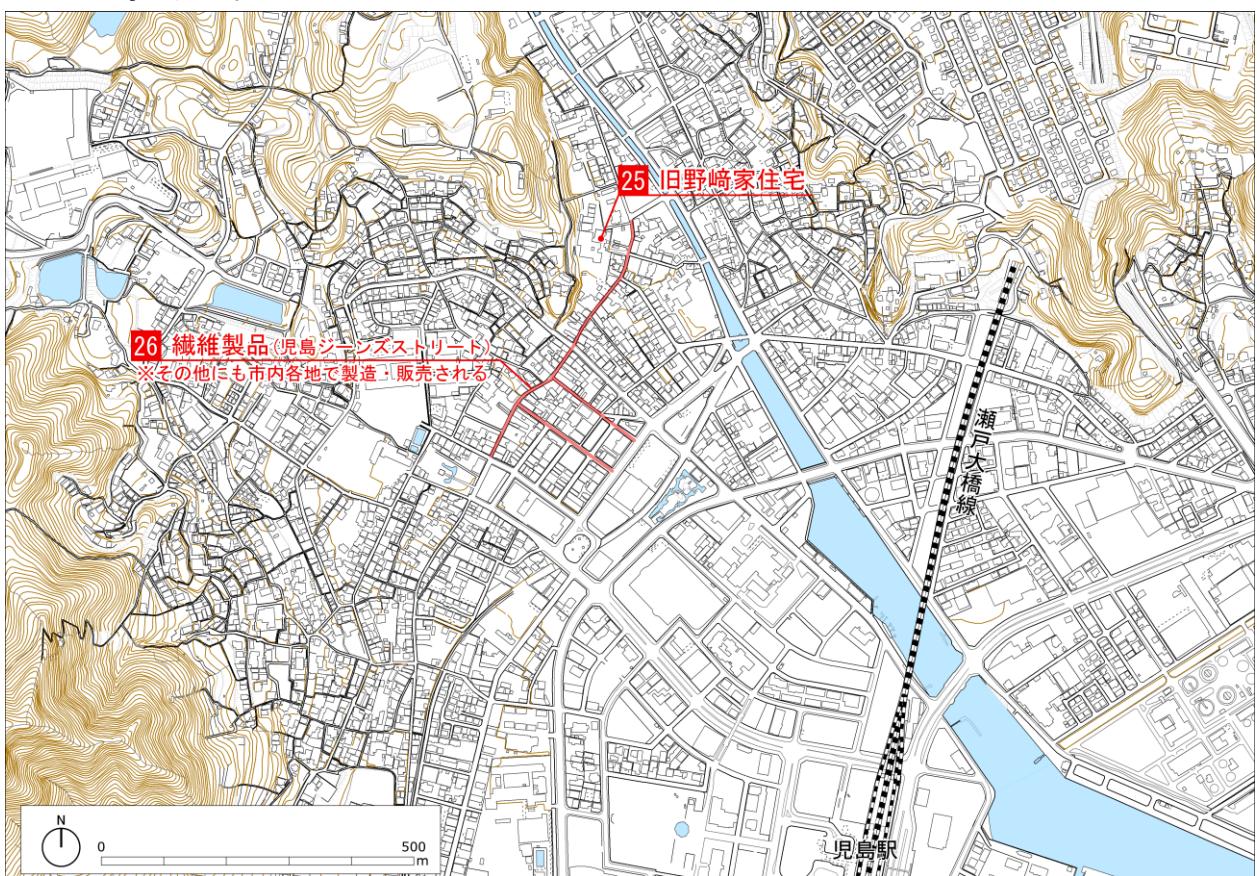
(4) 水島地域



(5) 児島地域（その1）



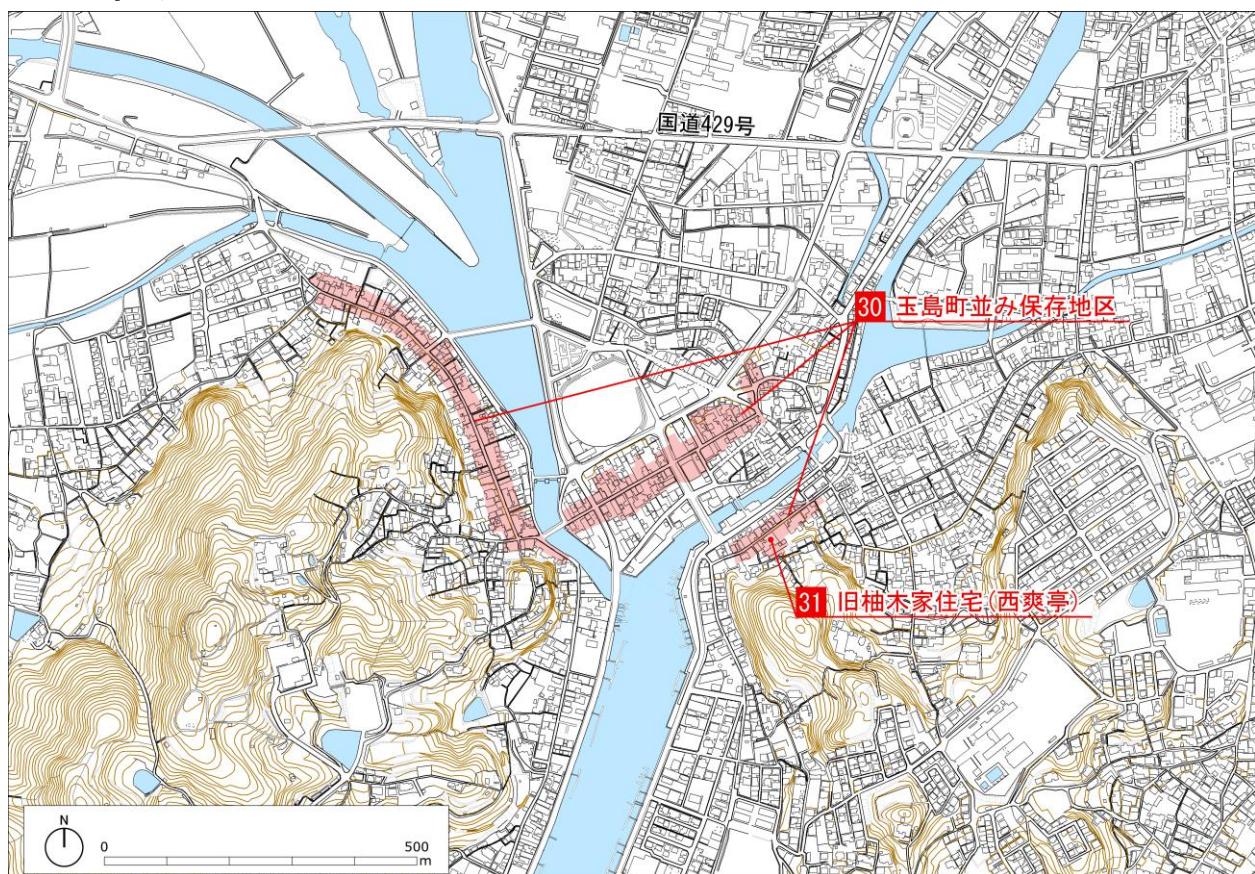
(6) 児島地域（その2）



(7) 児島地域（その3）



(8) 玉島地域



## ストーリー

### ◇はじまりは、一輪の綿花

倉敷市が位置する岡山県の南部一帯は、かつては「吉備の穴海」と呼ばれ、大小の島々が点在する一面の海だった。その広大な浅海は高梁川の沖積作用で徐々に浅くなり、近世以降の干拓によって陸地に姿を変えていった。干拓されたばかりの土地は塩分が多く、米作りには向かない。そこで塩に強い綿やイ草が栽培され、本市の繊維産業の礎が築かれたのである。始まりは干拓地に植えられた一輪の綿花だった。

現在は、近世に造られた水門や、近代の高梁川改修事業によって建設された国内最大級の現役樋門である「高梁川東西用水取配水施設」などにより、その干拓地へ豊富な水が供給され、倉敷市域繁栄へとつながっている。

### ◇綿花産業の富が育んだ天領倉敷

倉敷は寛永19年(1642)に幕府直轄地、いわゆる「天領」となって以降は、周辺の直轄領を支配する政治の中心地であると同時に、備中南部の物資集散の中継地として発展した。特に江戸中期以降、干拓地で綿やイ草などの換金作物が盛んに生産されるようになる。その様子は江戸後期の紀行文にも「見渡す所の田地に、過半は綿を植えたり」と記されるなど、付近の干拓地一面に綿畑が広がっていたことがうかがえる。

運河として利用された倉敷川の周辺は綿などを扱う問屋や仲買人で賑わい、成功した商人たちは豪壮な屋敷を建てその富を誇った。現在も倉敷川沿いには、川港の繁栄を物語る当時の荷揚げ場や路地の石畳、常夜灯などが残り、綿花産業の富を象徴する白壁の商家の建物が軒を連ねている。その質実で無駄のないデザインは、重厚さの中にも明るさを備え、往時の商人たちの活躍を今に伝える。

綿の集荷の中心であった倉敷や玉島、由加門前町で土産物としてもてはやされた真田紐や小倉織を生産した児島は地域の繊維産業発展の基盤であった。港町では綿作の肥料となる干鰯やニシン粕が買われ、原綿、くり綿が出荷された。玉島港の記録によると、売り買いされる商品の実に9割が綿関係で占められるほどであったという。この「備中綿」こそ倉敷地方に富をもたらした源だったのである。

### ◇伝統の技が生んだ繊維産業

明治時代になると、政府は殖産興業のもと、外国産の綿糸に対抗するために民間紡績業の育成を奨励した。倉敷では国内最初の民間紡績所である下村紡績(倉敷市児島)、玉島紡績(倉敷市玉島)が明治14年(1881)に開業。続いて明治22年(1889)にはイギリス式の最新の機械と工場施設を備えた倉敷紡績所(現クラボウ)が倉敷代官所跡に創設されるなど、繊維産業の隆盛は地域の発展に寄与することになる。

綿と並んでイ草も干拓地を中心に江戸時代から盛んに栽培されていたが、明治に入ると、磯崎眠亀が明治11年(1878)に精緻な文様を織り込んだ高級花蓮である錦莞筵を発明、3年後には輸出を開始した。それに刺激されてさまざまな製品が考案され、北米や中国を市場とした重要輸出品目まで成長し、全国一の花蓮産地になった。



川沿いの荷揚げ場や常夜灯



綿問屋が軒を連ねた港町玉島の町並み



錦莞筵 (磯崎眠亀記念館)

また、伝統産業として育まれた織りや縫製の技術は、足袋、学生服、作業着などの多彩な衣料品製造へと展開した。特に大正以降、服装の洋風化によって、学生服が急速に市場に浸透、紡績～撚糸～織物～染色～縫製という一貫生産体制によって、昭和初期には全国の学生服の9割を児島産が占めた。戦後にはこうした縫製の技術を活かし国内初のジーンズを販売。児島は「国産ジーンズ発祥の地」と言われるようになり、その加工技術は世界のジーンズ産業に大きな影響を与えている。

このように倉敷の繊維産業は江戸期以来の伝統産業に最新技術を織り合わせながら発展を続け、現在では繊維製品出荷額国内第1位を誇る「日本一の繊維のまち」となったのである。

#### ◇伝統を守りながら発展を続けるまちへ

倉敷の町では江戸期以来、干拓地からの収入を背景に、有力町衆の自治のもとで、「屏風祭」や秋祭りの「素隠居」、瀬戸内の魚介と旬の野菜類を鮮やかに盛りつけた「ばらずし」など、個性豊かな文化が育まれてきた。

明治以降、文明開化により紡績の産業城下町に生まれ変わった倉敷では倉敷紡績所が国内有数の紡績会社へと成長し、社長を務めた大原孫三郎は紡績業で得た富をもとに文化事業、社会事業、福祉事業などに取り組んだ。この中で、民芸運動への支援や農業研究所の設立など幅広い事業が展開され、現代につながる文化的な基礎が築かれるとともに、赤レンガの倉敷紡績所、ギリシャ神殿風の大原美術館をはじめとする多くの洋風建築が残された。これらはその時代、時代で、デザインと質の良さを追及して建てられており、江戸期の商家群の中にあって、当時の紡績業の隆盛を伝えるシンボルとして風景のアクセントになり、町の魅力を一層高めている。

戦後には孫三郎の長男で倉敷絹織(現クラレ)の社長であった總一郎により、昭和23年(1948)に倉敷におけるリノベーションの先がけとなる倉敷民藝館が、昭和25年(1950)には倉敷考古館が設立された。また、昭和49年(1974)には代官所跡に建てられた倉敷紡績発祥の工場を再開発し、倉敷アイビースクエアが開業するなど、古い建物を時代に合わせて活用する試みが続けられてきた。現在でも町家や土蔵を改装したカフェやレストラン、素材を活かした手仕事による繊維雑貨を取り扱う店舗などが開店し、ものづくりに触れる場として、企画展や作家によるワークショップなどが行われている。

#### ◇和と洋が織りなす繊維と町並みの倉敷物語

倉敷川には観光客を乗せた舟が行き交い、しなやかに揺れる柳の奥に見え隠れする町並みは、四季を通じて賑わっている。400年前までは、海とそこに浮かぶ島々であった倉敷。ここを干拓して栽培された一輪の綿花から始まる繊維産業は、倉敷を世界に誇る高品質な繊維製品を生み出す「日本一の繊維のまち」へと成長させるとともに、その発展の軌跡の中で形作られた伝統的な商家群と近代化を象徴する明治期以降の洋風建築が調和する町並みを創り出す礎となってきた。

倉敷の地を訪れ、美しい町並みを散策し繊維製品に触れると、和と洋が織りなしながら重ねられてきた倉敷の歴史文化とその魅力を体感することができる。



瀬戸内の幸、旬の野菜を使った「ばらずし」



祭りの名物「素隠居」



倉敷川畔の町並み

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	倉敷川畔 伝統的建造物群保存地区	国重伝建	江戸時代に干拓地からの富を背景に政治・経済の中心地となった。江戸期の商家群と明治以降の西洋建築が美しく調和する町並みが残る。	
2	旧大原家住宅	国重文 (建造物)	江戸後期から繰綿仲買商、米問屋、地主として村政を牽引し、明治以降、倉敷紡績の社長を務め、数々の西洋建築を残してきた大原家の邸宅。	
3	大橋家住宅	国重文 (建造物)	江戸後期、干拓事業や金融業などで財をなした大橋家の邸宅。倉敷を代表する商家の建築で、往時の富の大きさを感じさせる。	
4	井上家住宅	国重文 (建造物)	江戸時代初期から倉敷村の村政を担った井上家の邸宅。今から300年前に建てられた伝建地区内最古の建築で、倉敷の商家の原型を残す。	
5	楠戸家住宅	市重文 (建造物) 国登録	「はしまや」の屋号を持ち、明治2年(1869)の創業以来、現在も呉服店として営業を続ける明治期を代表する商家建築。	
6	大原美術館	未指定	倉敷紡績社長の大原孫三郎が画家児島虎次郎の業績を記念し、その収集作品を展示するため、昭和5年(1930)に建てた日本初の西洋近代美術館。	
7	旧中国銀行 倉敷本町出張所	国登録	大原孫三郎が頭取を務めた旧第一合同銀行の倉敷支店。建築家薬師寺主計が設計し、大正11年(1922)に建築された倉敷を代表する洋風建築。	
8	有隣荘	未指定	昭和3年(1928)に建てられた大原家の別宅。薬師寺主計が設計、伊藤忠太、児島虎次郎も建築に関わっており、和洋折衷の優美な外観が特徴。	
9	倉敷館	市指定	紡績業が盛んであった大正6年(1917)に倉敷町役場として建てられた。伝建地区の中心に位置し、シンボルとなっている洋風建築。	
10	倉敷考古館	未指定	浜田屋小山家の蔵を改装し、吉備の考古資料を展示する博物館として昭和25年(1950)に開館。東壁一面の「なまこ壁」が特徴で、代表的な土蔵建築。	
11	倉敷アイビースクエア	未指定	明治期、旧代官所の跡地に建設された倉敷紡績所の工場。往時の紡績工場の建物が残り、現在もリバーサイドによって観光交流施設として活用されている。	
12	倉敷紡績記念館	国登録	倉敷紡績の時代、原綿の倉庫として使われたレンガ造りの建物。昭和44年(1969)に倉紡創設80周年の年に改装され、記念館となった。	
13	倉敷屏風祭	未指定	江戸期、阿智神社の祭礼に始まる。各家が通りに面した格子戸を外し、屏風や花を生けて人々をもてなす。毎年秋祭りに合わせて開催されている。	

14	素隠居	未指定	江戸時代、年を取り秋祭りに参加できなくなつた老人が面を作らせ、代わりに参加させたことに始まる。団扇で叩かれると健康になるとされる。	
15	ばらずし	未指定	倉敷の商家では、祭りの日に近隣の人や知人を自宅に招き、瀬戸内の豊富な海の幸と旬の野菜を鮮やかに盛り合わせた「ばらずし」を作つて振舞つた。	
16	倉敷民藝館	未指定	江戸後期の米蔵を改装し、昭和23年(1948)に民藝館として開館した。倉敷の古民家再生の第1号であり、数多くの民芸品が収蔵、展示されている。	
17	民芸品	未指定	大原孫三郎が民芸運動を支援したことで、倉敷に民芸文化が花開き、酒津焼、羽島焼、倉敷ガラス、緞通など数多くの民芸品が生まれた。	
18	高梁川東西用水取配水施設	国重文 (建造物)	渴水期の紛争や水害対策のため、大正期に行われた高梁川河川改修に伴い、建築された農業用水の取配水施設。石張、鉄筋コンクリート造。	
19	一の口水門	市指定	綿の売買で繁栄した玉島港と高梁川を結び、高瀬舟による輸送を容易にするため、江戸初期に整備された運河「高瀬通し」の起点となる閘門式水門。	
20	磯崎眠亀記念館	国登録	明治期にイ草を原料に錦莞筵を生み出し、織物産業界で活躍した磯崎眠亀。その功績を記念し、住居兼作業場を改築して資料を展示している。	
21	錦莞筵	市重文 (歴史資料)	明治11年(1878)に倉敷茶屋町の磯崎眠亀が発明した紋様を織込んだ花筵。国内外の博覧会で多くの賞に輝き、海外への主要輸出品となつた。	
22	板敷水門	市指定	江戸後期の岡山藩による干拓の際に使用された排水水門。「嘉永二年 夏六月造」の銘が刻まれており、干拓の歴史を現在に伝える。	
23	蓮台寺	県重文 (建造物)	江戸期には岡山藩主池田家の厚遇を受けるとともに、讃岐金毘羅大権現との両参りで賑わい、門前町では小倉織・真田紐などがもてはやされた。	
24	由加神社	県重文 (建造物)	神仏分離令により、明治5年(1872)由加神社となつたが、それまでは瑜珈大権現として、金毘羅との両参りで賑わつた。	
25	旧野崎家住宅	国重文 (建造物) 県史跡	江戸後期、干拓により新田五ヶ村の名主を拝命した野崎武左衛門の邸宅。敷地面積は約3000坪で、建物延床面積は1000坪に及ぶ。	
26	繊維製品	未指定	江戸期の綿花栽培を基礎に生産が始まり、明治期以降、学生服、ジーンズ、帆布、畳縁など様々な製品が生産され、品質は世界をリードしている。	
27	下津井町並み保存地区	未指定	瀬戸内海に面する港町で、江戸時代には北前船による綿花、ニシン粕の取引港として、また讃岐金毘羅参りの宿場町として繁栄した。	

28	むかし下津且回船問屋	未指定	明治時代の回船問屋を改修した資料館。北前船の寄港地として賑わった下津井に関する資料が展示され、往時の商家の繁栄ぶりがうかがえる。	
29	下津両節	未指定	港町下津井に伝わる岡山県を代表する民謡。北前船の船頭達によって広まり唄い継がれてきた。唄い手日本一を決める全国大会が毎年行われている。	
30	玉島町並み保存地区	未指定	北前船と高瀬舟の水運により、干拓地で栽培された備中綿を売買する拠点となった。問屋が建ち並び、「西の浪速」と呼ばれるほど繁栄した港町。	
31	旧柚木家住宅(西爽亭) <small>ゆのき さいそうてい</small>	国登録	備中松山藩に仕えた玉島の庄屋・柚木家の旧宅で、玉島町並み保存地区に残る江戸中期の庄屋建築。往時の港町の繁栄を見ることができる。	

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

## 構成文化財の写真一覧

1 倉敷川畔伝統的建造物群保存地区



2 旧大原家住宅



3 大橋家住宅



4 井上家住宅



5 楠戸家住宅



6 大原美術館



## 構成文化財の写真一覧

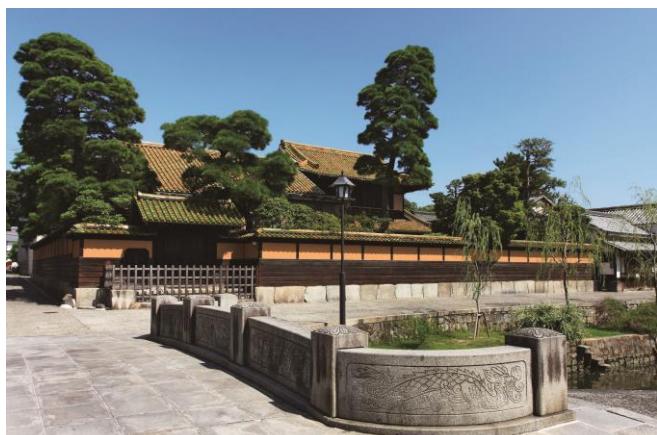
7 旧中国銀行倉敷本町出張所



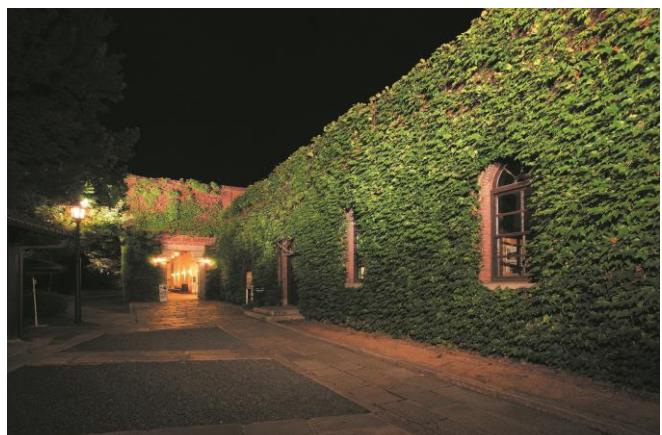
10 倉敷考古館



8 有隣荘



11 倉敷アイビースクエア



9 倉敷館



12 倉敷紡績記念館



## 構成文化財の写真一覧

13 倉敷屏風祭



16 倉敷民藝館



14 素隠居



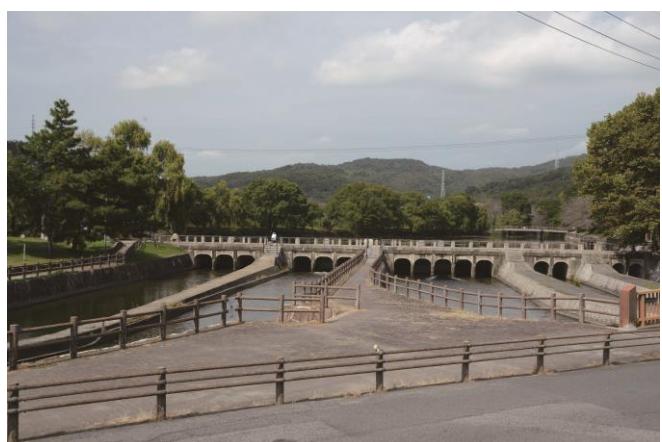
17 民芸品



15 ばらずし



18 高梁川東西用水取配水施設



## 構成文化財の写真一覧

19 一の口水門



22 板敷水門



20 磯崎眠亀記念館



23 蓮台寺



21 錦莞筵(きんかんえん)



24 由加神社



## 構成文化財の写真一覧

25 旧野崎家住宅



28 むかし下津井回船問屋



26 繊維製品



27 下津井町並み保存地区



29 下津井節



30 玉島町並み保存地区



## 構成文化財の写真一覧

31 旧柚木家住宅(西爽亭)



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

### (1) 将来像（ビジョン）

倉敷市では、倉敷美観地区や鷺羽山をはじめ、各地域の町並み、祭事、民芸、伝承など数々の文化財が、市民の暮らしの中で大切に守られ、受け継がれている。また、市民の営みに代表される織維産業は、地域経済の振興だけでなく市の福祉向上や文化振興にも広がりを見せ、さまざまな側面においてまちの発展の礎となっている。この織維産業と、郷土への愛着・誇りを育む源となっている多くの文化財をつなぐ日本遺産の認定を契機として、文化財とその周辺環境とが一体となった歴史文化の豊かな環境をさらに守り、育み、活かす取り組みを進め、「暮らし続けたい」「暮らしてみたい」まちの実現を目指す。

### (2) 地域活性化のための取組の概要

#### ① 歴史文化を次世代へつなぐまちづくり

- ・日本遺産認定により地域の魅力を再認識することで、文化財とその周辺環境の一体的な保存活用の取り組みを進め、次世代に継承する。

#### ②（仮称）倉敷市日本遺産推進協議会による歴史文化を活かしたまちづくりの推進

- ・市民、事業者、行政などの多様な主体が連携して、日本遺産を活かしたまちづくりを進め、地域の魅力向上と活力創出につなげる。

#### ③ 郷土への愛着と誇りをもった人材の育成

- ・日本遺産のストーリーを学びの教材として活用し、学校教育や社会教育において多様な学習の場を設けることで、郷土への愛着と誇りを育み、歴史文化の担い手を育成する。

#### ④ 倉敷の個性と魅力を世界に発信

- ・多様な媒体を活用して、日本遺産のストーリーを国内外に広く発信することで、文化財の価値と魅力を深めるとともに、倉敷の知名度や集客力の向上を図る。

#### ⑤ 文化・伝統を活かした観光産業の振興

- ・伝統産業が今も息づく「ものづくり」をテーマとした産業観光を推進するとともに、近隣都市との周遊ルートの形成、市内点在の文化財を結ぶ回遊路の整備や旅行商品の造成促進などにより、観光消費の拡大を図る。

#### ⑥ 外国人観光客の受入態勢の充実

- ・日本遺産を紹介する観光ガイド等のおもてなし人材を育成するとともに、ガイドマップや店舗メニュー等の多言語化を進めるなど、外国人観光客が周遊しやすい環境を整備する。

#### ⑦ 倉敷の発展を支えてきた織維産業の振興

- ・まちの発展の礎となった織維産業の情報発信や、新たな製品の開発を進めるなど、織維産業のさらなる振興を行う。

#### ⑧ 地域産業の競争力強化

- ・日本遺産のストーリーを活用したプロモーションを国内外で実施し、織維製品の地域ブランド力の創出を図るとともに、市の織維事業者の販路開拓・拡大を促進する。

### (3) 自立的・継続的な取組

- ・「ふるさと納税」に「日本遺産推進事業」の項目を追加し、（仮称）倉敷市日本遺産推進協議会が実施する事業の財源として活用する。「ふるさと納税」の返礼品には、日本遺産のストーリーに関する特産品などを加え、倉敷市の日本遺産への取り組みを広くPRするとともに、地域産業の振興につなげる。

- ・日本遺産を紹介する携帯サイトは、民間の活力を導入し、情報提供する店舗などから広告料を得て、運営する。

### (4) 実施体制

#### ・協議会の名称：

（仮称）倉敷市日本遺産推進協議会

#### ・構成団体：

倉敷市（企画財政部、税務部、文化観光部、商工労働部、まちづくり部）、倉敷市教育委員会、倉敷市歴史文化基本構想等審議会、倉敷商工会議所、児島商工会議所、玉島商工会議所、真備船穂商工会、つくば商工会、（公財）倉敷市文化振興財団

倉敷市の歴史文化に精通している学識者をコーディネーター役として協議会に配置し、協議会の意見を調整しながら進めるとともに、協議会に、実際に事業を進めるためのワーキンググループを設置し、地域と連携した取り組みを行う。

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果		定量的評価 : 別紙①のとおり
期待される効果 :	<p>市民の地域の歴史文化への関心が高まり、郷土への愛着・誇りが育まれることにより、文化財とその周辺環境とが一体となった歴史文化を適切に守り、活かす「ひと」を育成することができる。</p> <p>また、日本遺産を通じた取り組みにより、都市ブランド力の強化が見込め、観光振興や地域産業の競争力強化による地域活性化、さらには移住・定住の促進にも期待できる。</p>	
(6) 日本遺産魅力発信推進事業		別紙②のとおり
補助金額 :	平成29年度 : 58,742千円	平成30年度 : 49,152千円
(7) その他事業		別紙③のとおり

## （5）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標 I :	日本遺産を活用した集客・活性化				
計画評価指標 :	観光客入込み数 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 :	市内にある主要観光地の観光客数				
目標値 :	平成 27 年 5,287 千人 ⇒ 平成 34 年 6,500 千人				
設定根拠 :	本市では既存計画でH31年目標値（6,000千人）を示しており、毎年、178千人程度（H27年の約3.4%）の伸びを見込んで設定。				
設定目標 I :	日本遺産を活用した集客・活性化				
計画評価指標 :	宿泊者数 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 :	市内の宿泊者数				
目標値 :	平成 27 年 1,003 千人 ⇒ 平成 34 年 1,350 千人				
設定根拠 :	本市では既存計画でH31年目標値（1,200千人）を示しており、毎年、49千人程度（H27年の約4.9%）の伸びを見込んで設定。				
設定目標 I :	日本遺産を活用した集客・活性化				
計画評価指標 :	宿泊者数 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 :	市内の外国人宿泊者数				
目標値 :	平成 27 年 46,948 人 ⇒ 平成 34 年 70,000 人				
設定根拠 :	本市では既存計画でH31年目標値（60,000人）を示しており、毎年、3,260人程度（H27年の約6.9%）の伸びを見込んで設定。				
設定目標 I :	日本遺産を活用した集客・活性化				
計画評価指標 :	経済効果 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 :	市内事業所の製造品出荷額				
目標値 :	平成 26 年 46,592 億円 ⇒ 平成 34 年 51,900 億円				
設定根拠 :	倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」の「めざそう値」に基づく				
設定目標 I :	日本遺産を活用した集客・活性化				
計画評価指標 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 :	倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」市民アンケート調査の「地域の産業が活性化している」と思っている人の割合				
目標値 :	平成 27 年度 32.4 % ⇒ 平成 34 年度 39.0 %				
設定根拠 :	倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」の「めざそう値」に基づく				
設定目標 II :	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化				
計画評価指標 :	地域の文化に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標 :	倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」市民アンケート調査の「後世に伝えたいと思うくらしき文化が大切に継承されている」と思っている人の割合				
目標値 :	平成 27 年度 55.8 % ⇒ 平成 34 年度 73.0 %				
設定根拠 :	倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」の「めざそう値」に基づく				

設定目標Ⅱ :	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化					
計画評価指標 :	地域の文化に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 :	倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」市民アンケート調査の「倉敷の魅力を人に紹介・説明ができる」と思っている人の割合					
目標値 :	平成 27 年度	28.2	%	⇒	平成 34 年度	50.0 %
設定根拠 :	倉敷市第六次総合計画「まちづくり指標」の「めざそう値」に基づく					
設定目標Ⅲ :	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立					
計画評価指標 :	日本遺産のためのふるさと納税額 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 :	「日本遺産推進事業」を使途とする、ふるさと納税額の上昇率					
目標値 :	平成 29 年度	100	%	⇒	平成 34 年度	200 %
設定根拠 :	平成29年度を基準とし、毎年15%の上昇を設定					
設定目標Ⅲ :	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立					
計画評価指標 :	日本遺産関連で開発された商品・サービス数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 :	地元事業者による日本遺産関連商品の作成数					
目標値 :	平成 29 年度	0 件	⇒	平成 34 年度	50 件	
設定根拠 :	補助金がある平成31年度末までに30件の商品開発を行い、その後、毎年10件の増加を設定					
設定目標Ⅳ :						
計画評価指標 :	(具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 :						
目標値 :	平成 年度		⇒	平成 年度		
設定根拠 :						

## (6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①：	ストリートビュー（360° パノラマ）歴史文化発信事業		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度～平成 30 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 182千円×30スポット+3,200千円	平成30年度： 182千円×10スポット	平成31年度： 0千円
事業概要：	グーグルのストリートビュー（360° パノラマ）を利用して、日本遺産を構成する文化財の周遊を促進する携帯サイトを構築する。倉敷市の歴史文化を掘り下げて紹介するとともに、旅のモデルコースや周辺のお勧めスポット・お店などの情報を提供する。		
評価指標区分：	ホームページ閲覧数（P V数）		（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	携帯サイト閲覧数		
目標値：	平成 28 年度 0 件	⇒ 平成 34 年度 3,000,000 件	
事業②：	日本遺産PRパンフレット・ポスター作成事業		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度～平成 29 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 6,000千円	平成30年度： 6,000千円×1式	平成31年度： 0千円
事業概要：	日本遺産をPRするため、日本語版・英語版等のパンフレットやポスターなどを作成する。		
評価指標区分：	補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分）		（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	パンフレット（日・英）増刷数		
目標値：	平成 28 年度 0 部	⇒ 平成 34 年度 100,000 部	
事業③：	日本遺産「倉敷」PR動画制作事業		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度～平成 30 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 0千円	平成30年度： 8,000千円	平成31年度： 8,000千円×1式
事業概要：	国内外向けに倉敷市の日本遺産に係る歴史文化や、観光、産業をPRするプロモーション動画を制作する。1コンテンツを30秒程度とし、製作した動画を倉敷市の公式チャンネル等を活用し、世界に向けて配信する。		
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）		（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	YouTubeの再生回数		
目標値：	平成 28 年度 0 回	⇒ 平成 34 年度 10,000 回	
事業④：	多言語音声ガイド日本遺産倉敷ナビ（Japan Heritage Kurashiki Navi）制作事業		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 29 年度～平成 31 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 6,460千円	平成30年度： 6,460千円×1式	平成31年度： 0千円
事業概要：	スマートフォンやタブレット端末からアプリをダウンロードして、文化財を紹介する音声ガイド（日・英）が利用できる仕組みを導入する。ビーコンを活用し、文化財に近づけば音声が流れるサービスやスタンプラリー等も盛り込み、周遊性の向上と滞在時間の延長を図る。		
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）		（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	アプリダウンロード数		
目標値：	平成 28 年度 0 回	⇒ 平成 34 年度 100,000 回	

事業⑤：	日本遺産「倉敷」走る広告塔事業		
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度～平成 31 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 0千円	平成30年度： 2,000千円	平成31年度： 2,000千円
事業概要：	水島コンビナートや物流拠点がある立地の強みを生かし、コンテナやトラック等へのラッピング広告により国内外へ魅力をPRする「走る広告塔」事業を実施。広告面を撮影してSNS上にアップすると、抽選で繊維製品が当たる企画を合わせて実施する。		
評価指標区分：	SNS上の情報発信の「いいね」の数		
具体的な指標：	SNS上での情報発信数（抽選応募数）		
目標値：	平成 28 年度 0 人	⇒	平成 34 年度 50,000 人
事業⑥：	日本遺産観光ガイド養成事業		
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度～平成 29 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 800千円 800千円×1式	平成30年度： 0千円	平成31年度： 0千円
事業概要：	倉敷市内で活動する観光ボランティアガイド団体等を対象に、日本遺産のストーリーや構成文化財を説明・案内できる人材を育成するための研修会を開催する。		
評価指標区分：	ガイド利用者数		
具体的な指標：	日本遺産観光ボランティアガイド利用者数		
目標値：	平成 28 年度 0 人	⇒	平成 34 年度 5,000 人
事業⑦：	外国人観光客対応力向上事業		
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度～平成 29 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 1,000千円 1,000千円×1式	平成30年度： 0千円	平成31年度： 0千円
事業概要：	日常会話が可能なレベルの英語力を有するガイド等を対象に、外国人講師とともに日本遺産に関係する文化施設等を巡回し、英語での実践的なやりとりを行う実地研修を開催する。		
評価指標区分：	ガイド利用者数		
具体的な指標：	日本遺産観光ボランティアガイド（英語）利用者数		
目標値：	平成 28 年度 0 人	⇒	平成 34 年度 500 人
事業⑧：	日本遺産観光魅力創出・誘客促進事業		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度～平成 31 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 2,322千円 2,322千円×1式	平成30年度： 3,132千円 3,132千円×1式	平成31年度： 1,250千円 1,250千円×1式
事業概要：	購買力の高いシニア層を対象にマーケット調査を行い、学習旅などテーマ性の高い旅行商品を設定する。また、大都市圏で開催される観光イベントへの出展や旅行会社・メディア等を活用した情報発信を展開するとともに、これら情報発信と連動したモニターツアーを実施する。		
評価指標区分：	日本遺産に関する旅行商品数		
具体的な指標：	オリジナルツアー送客数		
目標値：	平成 28 年度 0 人	⇒	平成 34 年度 500 人

事業⑨：	日本遺産認定記念シンポジウム等開催事業		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度～平成 29 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 7,500千円 1,000千円+6,500千円×1式	平成30年度：	0千円
事業概要：	日本遺産認定を記念するシンポジウムを開催するとともに、東京都内でメディアを対象としたPRイベントを実施する。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度		
具体的な指標：	市内にある主要観光地の観光客数		
目標値：	平成 27 年 5,287 千人	⇒ 平成 34 年	6,500 千人
事業⑩：	日本遺産活用大学連携事業		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度～平成 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 500千円 500千円×1式	平成30年度：	300千円
事業概要：	県内大学と連携をして、日本遺産を活用した着地環境改善の調査研究などを行い、大学生などの若者による柔軟な発想・アイデアによる誘客、滞在時間延長の実現可能性を探る。		
評価指標区分：	その他		
具体的な指標：	観光客の平均滞在時間		
目標値：	平成 26 年度 3.6 時間	⇒ 平成 34 年度	4.5 時間
事業⑪：	日本遺産認定効果検証事業		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度～平成 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 0千円	平成30年度： 5,900千円 5,900千円×1式	平成31年度： 0千円
事業概要：	日本遺産の認定前と認定後の観光動態の比較を行い、その効果を検証するとともに、課題を抽出して、施策・事業の見直しや企画立案に活用する。		
評価指標区分：	その他		
具体的な指標：	観光客の平均滞在時間		
目標値：	平成 26 年度 3.6 時間	⇒ 平成 34 年度	4.5 時間
事業⑫：	小学校副読本「日本遺産」編製作事業		
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度～平成 31 年度
補助金額： (積算)	平成29年度： 3,000千円 150円×10,000部+1,500千円	平成30年度： 1,500千円 150円×10,000部	平成31年度： 1,500千円 150円×10,000部
事業概要：	日本遺産に特化した副読本を製作し、市内の小学校3・4年生に配付し、郷土への愛着と誇りを育む。		
評価指標区分：	日本遺産の認知度		
具体的な指標：	「倉敷の魅力を人に紹介・説明ができると思っている」人の割合		
目標値：	平成 27 年度 28 %	⇒ 平成 34 年度	50 %

事業⑬	日本遺産倉敷インバウンド視察ツアーアイテム		
事業区分	普及啓発	事業期間	平成 31 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額 (積算)	平成29年度 : 0千円	平成30年度 : 0千円	平成31年度 : 2,000千円 2,000千円×1式
事業概要	国内に在住又は滞在する外国人を対象に、倉敷の日本遺産のストーリーに関する観光施設等を巡る視察ツアーアイテムを実施する。参加者から外国人ならではの視点で興味を持ったポイント等の意見を聴取することにより、日本遺産の磨き上げを行う。		
評価指標区分	その他		
具体的な指標	観光客の平均滞在時間		
目標値	平成 26 年度 3.6 時間	⇒ 平成 34 年度 4.5 時間	
事業⑭	T V・W E B タイアップ事業		
事業区分	情報発信	事業期間	平成 29 年度 ~ 平成 29 年度
補助金額 (積算)	平成29年度 : 8,500千円	平成30年度 : 0千円	平成31年度 : 0千円
事業概要	倉敷の日本遺産のストーリーをもとにした日本昔話風のアニメーション動画を制作するとともに、S N S 拡散力の高いW E B メディア等を活用して、倉敷の海外認知度を向上させる。		
評価指標区分	コンテンツダウンロード数（掲載H Pや動画共有サイトでの再生回数等）		
具体的な指標	YouTubeの再生回数		
目標値	平成 28 年度 0 回	⇒ 平成 34 年度 1,000,000 回	
事業⑮	日本遺産ナビチャリ周遊促進事業		
事業区分	普及啓発	事業期間	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額 (積算)	平成29年度 : 0千円	平成30年度 : 5,000千円	平成31年度 : 5,000千円
事業概要	GPS音声ナビゲーションを活用して、多言語で日本遺産の構成文化財などを紹介するレンタサイクルを導入し、市内の周遊を促進する。		
評価指標区分	その他		
具体的な指標	観光客の平均滞在時間		
目標値	平成 26 年度 3.6 時間	⇒ 平成 34 年度 4.5 時間	
事業⑯	日本遺産倉敷「World Denim Summit」事業		
事業区分	普及啓発	事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額 (積算)	平成29年度 : 0千円	平成30年度 : 10,000千円	平成31年度 : 10,000千円
事業概要	海外有名見本市主催者と連携してデニム・ジーンズに関する世界的な要人や海外バイヤーを市内に招聘し、シンポジウムやエクスカーション、商談会や展示販売等を行うイベントを開催し、日本遺産「倉敷」を世界に発信し知名度を向上させる。		
評価指標区分	日本遺産の認知度		
具体的な指標	サミットの参加人数		
目標値	平成 28 年度 0 人	⇒ 平成 34 年度 1,000 人	

事業⑪	日本遺産「倉敷」海外プロモーション事業		
事業区分	普及啓発	事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額 (積算)	平成29年度 : 0千円	平成30年度 : 8,000千円	平成31年度 : 8,000千円
事業概要	海外の商業施設やギャラリー等で日本遺産「倉敷」のポップアップショップを開設し、日本遺産「倉敷」ストーリーの発信や繊維製品の展示・即売イベント等を実施。海外における地域ブランド力を創出し、繊維製品を中心とした特産品の海外販路拡開拓・拡大を目指す。		
評価指標区分	その他		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標	企業の海外販路開拓実現数（1か国1ブランドを1として、のべ数）		
目標値	平成 28 年度	ブランド	⇒ 平成 34 年度 30 ブランド
事業⑫	日本遺産「倉敷」展事業		
事業区分	普及啓発	事業期間	平成 29 年度 ~ 平成 34 年度
補助金額 (積算)	平成29年度 : 3,000千円	平成30年度 : 3,000千円	平成31年度 : 3,000千円
事業概要	繊維産業ゆかりの近代化産業遺産認定施設「倉敷アイビースクエア」において、日本遺産のパネル展示や体験イベントを繊維製品の物販とともに実施する日本遺産「倉敷」展を開催する。		
評価指標区分	日本遺産の認知度		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標	来場者数		
目標値	平成 28 年度	人	⇒ 平成 34 年度 10,000 人
事業⑬	日本遺産「倉敷」製品タグ貸出制度事業		
事業区分	普及啓発	事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 31 年度
補助金額 (積算)	平成29年度 : 0千円	平成30年度 : 500千円	平成31年度 : 0千円
事業概要	繊維製品に付ける日本遺産「倉敷」のタグをデザインし、繊維製造事業者に有償で使用権を付与する製品タグ貸出制度を実施する。		
評価指標区分	日本遺産に関する商品開発数		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標	タグ貸出商品数		
目標値	平成 28 年度	0 品	⇒ 平成 34 年度 50 品
事業⑭	構成文化財案内板・説明板設置事業		
事業区分	公開活用のための整備	事業期間	平成 29 年度 ~ 平成 29 年度
補助金額 (積算)	平成29年度 : 1,000千円 50千円×20本	平成30年度 : 0千円	平成31年度 : 0千円
事業概要	構成文化財の案内板・説明板を日本語及び英語等で製作・設置し、日本遺産ストーリーの理解促進、及び国内外から来訪する観光客が周遊するための利便性の向上を図る。		
評価指標区分	その他		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標	市内にある主要観光地の観光客数		
目標値	平成 27 年	5,287 千人	⇒ 平成 34 年 6,500 千人

事業②① :	(仮称) 倉敷日本遺産センター設置事業		
事業区分 :	公開活用のための整備	事業期間 :	平成 29 年度 ~ 平成 29 年度
補助金額 :	平成29年度 : 10,000千円	平成30年度 : 0千円	平成31年度 : 0千円
(積算)			
事業概要 :	日本遺産の情報発信の拠点として「(仮称) 倉敷日本遺産センター」を設置し、構成文化財を紹介する映像上映、パネル展示、パンフレットの配付などを行い、日本遺産のストーリーの理解に有効なガイダンス機能を強化する。		
評価指標区分 :	施設への入込み数		
具体的な指標 :	(仮称) 倉敷日本遺産センターの入館者数 (年度)		
目標値 :	平成 28 年度 0 人	⇒	平成 34 年度 350,000 人

## （7）その他事業

事業①：	倉敷市倉敷川畔伝統的建造物群基盤強化事業		
機関・団体：	文化庁	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 34 年度
事業概要：	倉敷市倉敷川畔伝統的建造物群保存地区内の建造物の外観を修理・修景する者に補助を行う。		
事業②：	倉敷市伝統美観保存地区修景事業、倉敷市町並み保存地区整備事業		
機関・団体：	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 34 年度
事業概要：	倉敷市伝統美観地区、下津井町並み保存地区、玉島町並み保存地区内の建造物の外観を修理・修景する者に補助を行う。		
事業③：	重要文化財井上家住宅主屋ほか4棟保存修理事業		
機関・団体：	文化庁	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 34 年度
事業概要：	日本遺産の構成文化財である重要文化財「井上家住宅」の保存修理を行い、公開活用する。		
事業④：	「倉敷市の文化財アプリ」拡充事業		
機関・団体：	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 34 年度
事業概要：	「倉敷市の文化財アプリ」に、日本遺産を解説するコンテンツを追加する。		
事業⑤：	地域を紡ぐ「倉敷コットンプロジェクト」（倉敷市制50周年記念事業）		
機関・団体：	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 29 年度
事業概要：	市内の小学校や市民が栽培した綿花で糸を紡ぎ、1本のジーンズを製作する過程を通じて、倉敷の繊維産業の歴史を学び、郷土への愛着と誇りを再確認するイベントを実施する。		
事業⑥：	くらしき地域資源活性化事業（海外販路開拓支援）		
機関・団体：	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 34 年度
事業概要：	海外見本市への出展や海外バイヤー招聘による商談会、セミナー等により、繊維産業の海外販路開拓・拡大を図る。		
事業⑦：	倉敷市大学連携講座		
機関・団体：	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 34 年度
事業概要：	市内の大学と連携し大学教授等を講師として、市民向けに日本遺産を周知するための講座を開設する。		
事業⑧：	高梁川流域インテリジェントICT実装事業		
機関・団体：	文化庁以外の省庁	： 内閣府	事業期間： 平成 29 年度～平成 30 年度
事業概要：	人工知能を利用したアプリやロボットで、日本遺産を構成する文化財などを紹介する。		
事業⑨：	産業観光推進事業		
機関・団体：	自主事業	： 産業観光ツアーリンク 委員会	事業期間： 平成 29 年度～平成 34 年度
事業概要：	地場産業の魅力や地域の歴史を楽しく学べるバスツアーを企画・実施する。		
事業⑩：	超ICT観光モデル実証実験事業		
機関・団体：	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 30 年度
事業概要：	民間企業と連携し、外国人観光客等の利便性向上を目的とした、新ICTの活用策を研究する。		

事業⑪ :	外国人観光客おもてなし促進事業		
機関・団体 :	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 31 年度
事業概要 :	飲食店・宿泊施設等を対象に、看板やメニュー表の多言語化、Wi-Fi整備の経費を補助する。		
事業⑫ :	倉敷フリーWi-Fi整備事業		
機関・団体 :	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 31 年度
事業概要 :	外国人観光客等の利用者がストレスなく無料で利用できるWi-Fiエリアを拡充、運用する。		
事業⑬ :	観光ウェブサイト運用事業		
機関・団体 :	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 29 年度～平成 29 年度
事業概要 :	倉敷市公式観光サイト「倉敷観光WEB」内に、日本遺産を紹介する特集ページを作成する。		
事業⑭ :	日本遺産「倉敷」製品タグ貸出制度事業		
機関・団体 :	自主事業	： 倉敷市	事業期間： 平成 32 年度～平成 34 年度
事業概要 :	繊維製品に付ける日本遺産「倉敷」のタグをデザインし、繊維製造事業者に有償で使用権を付与する製品タグ貸出制度を実施する。		